学校だより

翔　　空

№４５　平成２４年　３月２１日（水）
郡山市立喜久田中学校長　大堀　昌弘

「翔空（しょうくう）」の由来　〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚（ふうこうめいび）なこの学舎（まなびや）から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

［今年度の反省］

今年度は、自分の思うところの半分も実践できませんでした。８月１日の着任から早８ヶ月が経とうというのに、残念ながら何一つ自慢できるものがないままに終わりそうです。

学校は、地域の文化財。そして学校は地域との協力のもとに地域と一体となって歩む存在でなければならない、などと信念や考えばかりが先に立って、実践が伴わなかったなあと改めて感じます。次年度は有言実行といきたいと今から考えております。

私にとっての次年度の大きな課題は、

１）いかにして生徒の自主性をさらに伸ばしていくかをしっかり考えること
２）生徒の進路実現をよりよきものにするため、どうやって学力を向上させたらよいか考えること
３）放射線と共存していくためにも、もっとやるべきことがあるとわかっていながらできていない現状を打破すること

の３つです。他誓（たせい）いたします！

※他誓というのは、他人に誓うこと。反対は自誓。

１年間お世話になりました

～最終号は「挨拶の話」で締めくくり～

伊達市にある聖光学院は、一昨年の夏の甲子園でベスト８に入り、昨年はベスト１６と県民を大いに喜ばせてくれました。そんな聖光学院に対して伊達市民もその快進撃につい て納得しているというのです。日頃から聖光学院の生徒の挨拶はとてもよいし、ごく当たり前のようにゴミ拾いだってやってくれています。ある中学校の校長先生がそんな生徒の様子に感銘を受け学校に電話をかけました。そしたら、誰にでも挨拶をする習慣は以前にはなかったが、野球部を中心としてそれが全校に広まったというのです。斎藤智也監督は、『挨拶もできない者は一人前になれない』をモットーとしています。また、『挨拶をすることとゴミ拾いをすることは基本的には同じ考えからくるものです』とも。喜久田中のみなさんにも、今以上に元気な挨拶をしてほしい。挨拶をすることで自分自身も気持ちがよいけれど、挨拶された相手はもっと気持ちがよい。ゴミ拾いだって同じ気持ちなのです。

「たかが挨拶されど挨拶」とはよく言います。生活の基本中の基本である挨拶がきちんとできない者は、一般社会でも通用しません。本校でも、毎朝、昇降口であいさつ運動が行われています。週番の先生方も一緒に立って、挨拶をするのですが、日によっては生徒の挨拶が元気に返ってきません。蚊のなくような声です。挨拶は、心の窓を開いてくれる大切なコミュニケーションの道具です。インド人も「ナマステ」と言って挨拶を交わすそうですが、その意味するところは「あなたを信じます」とのこと。つまり、お互い信頼関係があるところに挨拶が交わされているのです。生徒会でも、あいさつ運動や書き損じはがき、ペットボトルキャップの回収など一生懸命に取り組んでいます。こういったものが日常化できたら素晴らしいですね！当たり前のことが当たり前にできる中学生を育てたいと考えています。